

令和4年度警固屋中学校区研究推進計画

校番8 呉市立警固屋中学校

校長名 坂井 峰子

1 学校教育目標

「自分を創る」

2 目指す児童生徒像

未来への展望を持ち自他の幸せを目指し、自立し貢献できる児童・生徒

3 育成を目指す資質・能力（具体の姿）

資質・能力 設定した	知識及び技能	思考力, 判断力, 表現力 等	学びに向かう力, 人間性等	
	知識・技能	思考力, 判断力, 表現力	主体性	協働性
後期	課題解決のために、探究の過程の中で得た知識や技能, 既存の知識・技能, 自身の経験などと結び付けて考えることができるような、深い理解を伴った知識・技能を有している。	既存の知識・技能や探究の過程で得た知識・技能を活用して、情報の分析・整理などを行い、場面や状況に応じて課題解決の計画を立てたり、解決策を見出したりしている。	自らが設定した課題の解決に向けて、粘り強く試行錯誤しながら、自らの意思で取り組もうとしている。	自らが設定した課題の解決に向けて、他者の考え方の違いを理解して柔軟に受け入れたり、他者と協力したりするなど、自らが調整して取り組もうとしている。
中期	課題解決のために、活動や体験の中で得た知識や技能, 自身の経験などと結び付けて考えることができるような知識・技能を有している。	既存の知識・技能や活動や体験で得た知識・技能を活用して、情報の分析・整理などを行い解決策について考えている。	設定した課題の解決に向けて、粘り強く試行錯誤しながら、進んで取り組もうとしている。	設定した課題の解決に向けて、他者の考え方の違いを理解して柔軟に受け入れたり、他者と協力したりするなど、自らが調整して取り組もうとしている。
前期	課題解決のために、身近な人々, 社会及び自然を自分とのかかわりでとらえるような知識・技能を有している。	具体的な活動や体験の過程で得た知識・技能を活用して、情報を整理し、まとめ表現している。	課題の解決に向けて、あきらめず進んで取り組もうとしている。	課題の解決に向けて、自分の考えを持ち、他者の考えを聞いたり、他者と協力したりするなどして取り組もうとしている。

4 研究主題等

(1) 研究主題

新たな知や価値を創造し、主体的に学び合う児童生徒の育成
～教科等の本質を追究した「考える授業」づくり～

(2) 設定理由（校区の児童生徒の課題分析等）

本学園は、「自分を創る」を学校教育目標とし、「未来への展望を持ち自他の幸せを目指し、自立し貢献できる児童・生徒」の育成を目指して、豊かな「学び」と豊かな「生き方」を基盤とした教育活動を展開している。

昨年度は、この学園構想のもと、研究主題を『思考力・判断力・表現力の育成～教科等の本質を追求した「考える授業」づくり～（対話）』として、各教科等において、学習指導要領で示されている「思考力、判断力、表現力等」の育成を目指して研究を進めてきた。

具体的には、一単位授業において「教科目標・単元目標から本時のねらいを焦点化すること」「教科等の見方・考え方を単元や授業単位で具体化すること」「本時のねらいを達成させる思考場面の設定（考える技法・思考ツール等）を行うこと」「思考場面において『ひと・もの・こと』との対話を効果的に設定すること」の4点に着目し、授業改善を進めた。また、「本時のめあてに対応したまとめ・振り返り」を意識して取り組んだ。このことを、「警固屋学園授業モデル」としてまとめ、小中教職員に研究の具体的な方法として示した。

12月に学園全体で実施した標準学力調査の正答率について、全国平均との差を、昨年度と今年度で比較した所、今年度わずかながら上昇している。しかし、小学校も中学校も、全国平均より下回る結果となっている。

国語科では、特に、「根拠を元に考えを論理的に表現する」ことに関する問題に課題が見られた。算数・数学科では、「知識・技能」に課題が見られる学年があり、数学の見方・考え方を働かせながら、具体的事象と関連付けて論理的に思考する問題にも課題が見られた。

このことから、「知識・技能」を自身の経験などと結び付けて深く理解したり、教科等の見方・考え方を働かせて論理的に思考し解決策を見いだしたり、新たな考えやよりよい考えを生み出す「思考力・判断力・表現力」のバランスのとれた育成が必要と考える。

また、児童生徒アンケートにおける「主体性」「協働性」に関する結果は次の通りである。

	質問項目	小学校	中学校
主体性	「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいます。	78.1%	83.3%
主体性	学習の振り返りをするときには、「もっと考えてみたいこと」「もっと調べてみたいこと」「もっと工夫してみたいこと」などを考えています。	87.0%	77.8%
協働性	授業では、友達と話し合うなどして、自分の考えを深めたり広げたりしています。	83.5%	88.9%

「主体性」については、小中で数値にばらつきがみられる。コロナ禍で活動が制限される中でも、探究的に課題解決に取り組めるような単元構成の工夫や、見通しを持って主体的に学習に取り組める授業展開を工夫する必要がある。子どもが自ら目標や「問い」を持ち、これまで学習したことを活用して、粘り強く目標に向かって試行錯誤する姿を目指したい。「協働性」については、小中ともに肯定的評価が80%を越えている。グループ活動等が制限される中、思考スキルや思考ツール、ICT機器等の活用によって、他者との対話を積極的に取り入れた結果ではないだろうか。協力して課題解決に向かう中で、互いの考えを比較したり関連付けたり、また疑問を持ったりしながら、他者との考え方の違いを理解して柔軟に受け入れ、自らの考えを広げたり深めたりする姿を目指す。

以上のことから、今年度は、「生活科・総合的な学習の時間」、及び、「各教科等」において、教科等の見方・考え方を単元や授業単位で具体化し、ねらいに迫る思考場面について吟味する「警固屋学園授業モデル」の考え方を実践し、授業改善を行う。その際、本時のめあてに対応したまとめ・振り返りを行うことで、児童生徒が見通しを持って主体的に学ぼうとする態度を育てる。そのことにより、児童生徒が主体的に学び合う力を高め、学園で目指す資質・能力を育成していきたい。

(3) 研究仮説

「警固屋学園授業モデル」において、既存の知識・技能や探究の課程で得た知識・技能を活用し、各教科等の「見方・考え方」を働かせて論理的に思考する場面を設定した授業づくりを行えば、教科等の本質を追究した学びを進め、新たな考えやよりよい考えを生み出したり、自らの考えを広げたり深めたりすることが出来、警固屋学園で目指す資質・能力の育成につながるであろう。

5 研究内容

児童生徒が各教科等の「見方・考え方」を働かせて「考える」ことが出来るような思考場面を設定した授業づくりを図る。その際、本時のめあてに対応したまとめ・振り返りを行う。

部会毎に、次の内容で実施する。

●学びを育む部会…各教科

●人を育む部会…生活科・総合的な学習の時間「生き方」に関するもの

具体的には、次のことを実践する。

- ・教科目標・単元目標から本時のねらいを焦点化する
- ・教科等の見方・考え方を単元や授業単位で具体化する
- ・本時のねらいを達成させる思考場面の設定（考える技法・思考ツール等）を行う
- ・本時のめあてに対応したまとめ・振り返りを行う

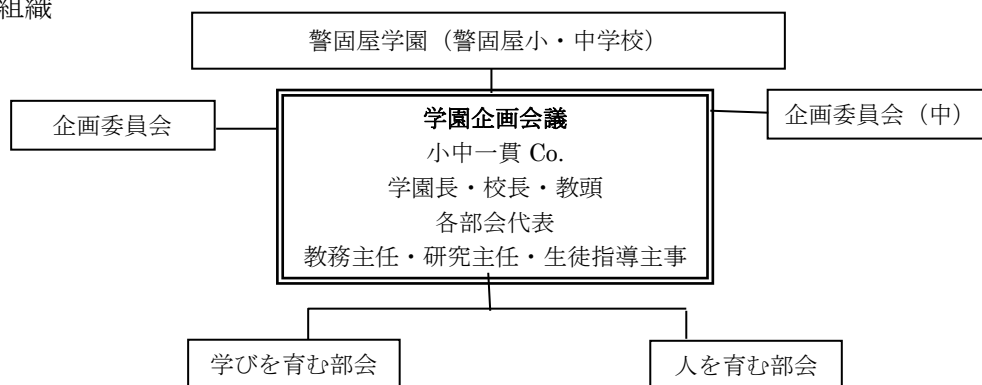
6 検証について

検証の視点	方法	検証の指標	現状値	達成目標
①「考える授業」作りを創造することができたか。	授業評価票（4段階評価）	研究授業における教職員の総合評価値の平均	—	3.2以上
	教師アンケート（4段階評価）	教職員の肯定的評価値の平均	—	3.2以上
②資質・能力を育成することができたか。	「知識・技能」に関する標準学力調査の数値	全国平均との差	小学校 -1.23 中学校 -3.60	小学校 ±0 中学校 +1.0
	「思考力・判断力・表現力」に関する標準学力調査の数値	全国平均との差	小学校 -3.15 中学校 -2.05	小学校 ±0 中学校 +1.0
	「主体性」に関する児童生徒アンケート	児童生徒の肯定的評価の割合	小学校 82.6% 中学校 80.6%	85.0%以上
	「協働性」に関する児童生徒アンケート	児童生徒の肯定的評価の割合	小学校 83.5% 中学校 88.9%	90.0%以上

質問紙（生徒用） 6月・12月【全学年対象】
標準学力調査（業者テスト） 12月【全学年対象】

7 推進体制等

(1) 推進組織



(2) 一部教科担任制実施計画

ア 乗り入れ授業等 (中→小, 小→中)

(中→小)

- ・小学校第6学年 算数科 (2学期実施)
- ・小学校第6学年 外国語活動 (3学期実施)
- ・小学校4・5・6学年 音楽科 (週2回実施)

(小→中)

- ・中学校補習授業 (夏季休業中に実施)

イ 小学校教科担任制

- ・警固屋小 第6学年 (理科・外国語・書写) 第5学年 (家庭科・外国語・書写)
- 第4学年 (理科・外国語・書写) 第3学年 (理科・外国語・書写)
- 第2学年 (書写) 第1学年 (書写)

8 学園研修計画

【日程】	【研究】 責任者：研究主任	【小中一貫教育】 責任者：小中一貫 Co.
4/4(月)	第1回 今年度の研究の方向性と研究主題の共有化 ・研究推進計画・カリキュラムマップ	「K貫ナビ」について
4/12(火)	第2回 部会別研修 組織作り, 研修内容確認, 授業者の決定	「K貫ナビ」の内容と担当の確認 学園運動会に向けて (運動会担当より)
4/25(月)	第3回	学園運動会に向けて (運動会担当より) ・係り打ち合わせ 配慮を要する児童生徒(生徒指導部より)
6/7(火)	第4回 「学びの変革」に係る研修 (報告) 部会別研修 授業研究 単元の内容について	授業研を10~12月に行う場合は、「学びの変革推進」研修と兼ねる。
時期未定	第5回 サテライト研修	
8/26(金)	第6回 全国学力・学習状況調査 結果交流 課題分析	
9/27(火)	第7回 部会別研修 授業研究に向けて ・呉版単元構想シート・指導案検討	
時期未定	第8回 講師招聘 中学校授業研 (学びを育む部会)	
	第9回 講師招聘 小学校授業研 (人を育む部会)	「K貫ナビ」進捗状況の交流 (責任者同士)
2/7(火)	第10回 「学びの変革」に係る研修 (報告) 部会別研修 本年度の成果と課題 (協議) ・学びを育む部会 授業研まとめ 「学習」に関する意識調査結果, 標準学力調査結果, 学力向上マップ結果 ・人を育む部会 授業研まとめ, カリキュラムマップ見直し	「K貫ナビ」の見直し (責任者同士) ※責任者同士で協議日を別に設定してもよい。
2/20(月)	第11回 各部会 本年度の成果と課題について (報告) 次年度研究推進計画 (案) について (報告)	次年度「K貫ナビ」(案) について (報告)

9 その他

(1) 小中一貫教育推進組織



(2) 行事・内容

- 学園運動会の実施（5月）
- 異学年交流活動 2・7年 3・8年 4・9年 総合的な学習の時間に位置付けている。
- 学園通信「ひまねき」の発刊（年間6号）
- 小中合同の取組のマニュアル「K貫ナビ」に沿った取組の実施，及び見直し。小中それぞれ各項目の責任者を決めている。

「K 貫ナビ」概要	
自分を創るマップ	学園教育目標，及び目指す児童生徒像の達成のためのループリック。児童生徒の自己評価，学年・学級担任等の他者評価を行い，保護者懇談会等で活用する。
夏休みの補習	中学生の夏期休業中の補習を実施し，小中教職員で学習指導にあたる。
学力向上マップ	国語，算数・数学における1～9年の達成目標を学力向上マップの一覧に示す。達成するとマークをすることによって，各学年での到達度を可視的にし，そこから，各教科や個々の児童生徒の学力面での課題を明らかにする。
読書貯金通帳	読書ページ数を記録し，各学年の目標達成をめざす。
学園掲示板	作品交流・総合的な学習の時間の成果物の掲示など
学園朝会	学園の行事やいじめ撲滅キャンペーンの取組に関する内容。（年5回実施）
いじめ撲滅キャンペーン	小学校計画委員会，中学校生徒会執行部からなる「いじめ防止委員会を中心に，いじめ撲滅標語の作成と啓発，いじめ撲滅のための取組の実施を行う。
6年生部活動参加	6年生が中学校部活動の見学と体験を行う。（年2回程度）

学園教育目標 「自分を創る」
<めざす児童生徒像>
 「未来への展望を持ち、自他の幸せを目指し、自立して貢献できる児童生徒
 対話〔ひと・もの・こと〕を通して、新たな知や価値を創造する子ども

<研究主題> 新たな知や価値を創造し、主体的に学び合う児童生徒の育成
 ～ 教科等の本質を追究した「考える授業」づくり ～

